

平成30年度 岡山市歯と口腔の健康づくり推進協議会 概要

日時：平成31年3月22日

午後1時00分～2時40分

場所：岡山市職員研修所2階 第2研修室

1 開会

挨拶 岡山市保健福祉局 松岡部長

平成30年度は様々な共生計画の初年度に当たっている。介護保険事業計画を初めとした高齢分野の計画、障害福祉計画、岡山市の場合では、昨年度制定した地域共生社会推進計画や保健分野では健康市民おかやま21第2次の後期など。健康市民おかやま21第2次の後期に合わせて昨年度のこの会議で、岡山市歯科保健基本計画の後半の方針を決めさせていただいた状況。

来年に向けての市政の動きの1つにフレイルが取り上げられているが、フレイルに関して保健分野で取り組むのはこの歯科の分野だけ。それ以外の認知機能や運動機能などの全般的な部分は、岡山市保健福祉局の中では高齢福祉部門でフレイルチェックという仕組みをつくり、それに対する対応が来年度に向けて企画されているところ。来年度から取り組むフレイルについてのあり方についてご意見をいただければありがたいと思っている。忌憚のない活発なご議論をお願いする。

2 報告

○事務局： 図1は、1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査でのむし歯のある子の割合をグラフにし、全国平均値と比較をしているもの。岡山市歯科保健基本計画では、この3歳児のむし歯の有病者率を10%にしようという目標を掲げており、1歳6か月児健診、3歳児健診とも有病率はわずかに減ってきているものの、まだ目標値の10%には遠い状況となっている。

図2は、永久歯の一人平均のむし歯数の推移をあらわしたもの。中学校1年生のむし歯数の平均が0.53本、つまり2人で1本は永久歯にむし歯ができていく状況で、岡山市歯科保健基本計画では0.3本にしようという目標を掲げている。データは岡山市学校保健概要調査から出している。

図3も岡山市学校保健概要調査のデータをもとに、フッ素洗口を実施して

いる小学校の6年生のむし歯の数の平均と、フッ素洗口を実施していない学校のむし歯の数の平均をあらわしたもの。フッ素洗口の効果が約30%から80%ぐらいと言われており、フッ素洗口を実施している学校のむし歯の数の平均が半分以下に減っているというような状況になっている。

図4は、中学生における歯肉に炎症所見を有する者の割合。これも岡山市学校保健概要調査のデータをもととして、要指導（G0）と判定されている者と要治療（G）と判定されている者の割合で、両方合わせて有所見者率として示している。岡山市歯科保健基本計画では減少を目標としているが、増加している状況となっている。

図5は、妊婦・パートナー歯科健康診査の受診者数の推移をあらわしたものの。平成28年度、平成29年度とわずかだが受診率は増えている状況。今年度は9月までの実績しかわからないが、受診率は少しずつ増えてきているかと思われる。治療が必要なむし歯や歯肉の状況であると判定された人が、妊婦で4割弱、パートナーで4割強いるので、若いうちから定期的に歯科受診ができるようなきっかけとなればと思っている。

図6は、歯周病検診の受診者数の推移をあらわしたものの。平成20年度から平成28年度は、30～50歳の5歳刻みの年齢を対象に歯周病検診を実施。平成29年度からは、それに加えて55～70歳の5歳刻みの年齢に対象を拡大。

加えて、国民健康保険の被保険者で、前年度受けた特定健診の結果で、HbA1cが5.6以上と糖尿病ハイリスクと判定された人に対して、歯周病検診の無料クーポン券を郵送。平成30年度は、40歳から70歳までの5歳刻みの年齢の2,385人に送付したところ、その無料クーポン券を使っでの受診が370人だった。全体の受診者数が509名なので、多くが歯周病検診の無料クーポン券を利用しての受診だった。特に65歳、70歳は無料クーポン券を使った人が受診者の9割弱を占めていた。無料クーポン券利用者の6割以上が前年度に歯周病による歯科受診をしている人だったため、かかりつけ医を持っていない人、歯周病に気がついていない人にも多く受診をしていただきたい。

続いて、岡山市歯科保健基本計画中間評価（平成29年度実施）結果の概要について説明する。これは、昨年度行った中間評価において、目標項目が計

画策定時からどのように変わってきているかというものをまとめたものになっている。

目標値以上の改善が1項目、改善傾向となったものが12項目、変化なしが1項目、それから悪化が8項目という結果になっている。昨年度、悪化となった項目を中心に、委員の皆様にご審議いただき、歯科保健基本計画の後半5カ年における今後の取組みの方向性を昨年度まとめたところ。

今後の取組みの方向性の大きな柱として、1口腔機能の維持・向上に関する取組み、2障害者（児）、要介護者が歯科治療、指導を受けられる環境の整備、3歯周病対策に分けている。取組みの方向性ごとに岡山市が平成30年度に行った事業等を表に落とし込んでいる。今年度新たに行ったもの、拡充したものを中心に報告する。

入所介護施設等への口腔ケア等導入支援事業について。この事業は、入所介護施設の利用者の歯科健診等を行うとともに、施設職員に対して口腔ケアに関する研修を行うもので、平成26年度から実施。平成30年度から事業内容を拡大し、これまでにこの事業を行った施設の職員に対してフォローアップの研修を開始した。

保健センター職員による学校保健委員会等を通じた歯周病予防の普及啓発について。市内の小・中学校における学校保健委員会に保健センターの保健師や歯科衛生士が伺い、岡山市歯科保健基本計画中間評価の紹介や歯周病予防に関する普及啓発を行った。これまでも実施しているものではあるが、まずは歯科を中心に健康教育をしていこうということで、平成30年度は市内12の小・中学校において普及啓発を行った。

生活保護世帯の糖尿病ハイリスク者に対する歯周病予防の普及啓発について。糖尿病と歯周病には負の関係性があるため、健診結果でHbA1cが5.6以上の血糖値、糖尿病のリスクがある人に対し、適切な口腔ケアを促進するために歯周病対策のパンフレットを今年度配布している。

商工会議所の会報を通じた歯周病予防の普及啓発について。商工会議所の会報9月号に歯周病検診の案内を掲載させていただき、受診勧奨、歯周病予防の普及啓発を行った。

- 委員： 資料の対象者数は。
- 事務局： 図2は中学生2,000人程度だったと思うが、正確な数字は手元にない。
図4の分母は6,000～7,000人ほど。
- 委員： 信憑性の観点から対象者数を示した方がよいのでは。
3歳児で虫歯のない児の割合という評価項目は、当初の調査と中間評価での調査とで対象者数は概ね一致するのか。
- 事務局： 受診率9割強の3歳児健診で調査しているため、対象者はほぼ全数となっている。
- 会長： 事務局は資料の対象者数の示し方の改善を。
- 副会長： 入所介護施設へのフォローアップ研修では概ねいい評価をいただいている。次年度以降も継続して、効果が上がることを期待している。
歯科医師会を対象に訪問歯科診療に関するアンケートを行っている。回答率は20%程度で、その8割ほどが訪問歯科診療に積極的な回答をくれている。訪問診療が難しいという答えの中には、診療時間内をうまく使えない、歯科医師が1人の診療所ではスタッフを帯同しての対応がまだ難しいという意見があった。
障害児に関する事業では、研修事業として実地で障害者の歯科の練習を実施している。今年度は座学の研修をし、障害者の歯科診療の対応が可能な先生に関しては4月以降に歯科医師会のホームページにリストアップして対外広報していくので、行政でもご活用いただければと思うのでよろしく願います。
- 委員： 小学校では歯科健診を大体5月頃に行っており、むし歯だけではなく歯肉の状況についても診ていただいている。治療が必要な場合は、個人への呼びかけ、保健だよりを通じた呼びかけなどしている。
学校保健安全委員会は大体の学校で年2回は開催されていて、そこで学校医や歯科医師から児童の健康や歯の状況について保護者へお話をいただいている。
生活チェックとして、今はメディアが問題になっているが、歯磨きなどに

についてもそれぞれの学校で保護者にも伝えて、強化週間などの取組みもしている。

栄養士が教室を回って児童に直接、食育の指導を行うこともしている。また、カミカミ献立も月に何回か実施しており、小学校では歯の健康について食育を通して取り組んでいる。

○会 長： 糖尿病と歯周病に関するパンフレットは、通常の医療機関にも置いてもらっているものか。

○事務局： 糖尿病の方に歯周病のことを案内してもらえるようにということで、医療機関にも配布していると岡山県から聞いている。

○委 員： 糖尿病や生活習慣病の患者には歯のことも尋ねるようにして、歯周病に注意をするようにはしている。

開業医の立場からになるが、かかりつけの歯科医師を持ちなさいという話はずっとしている。可能であればそのかかりつけ歯科医師と連携を取って、糖尿病や高血圧が見つければ歯科医師から内科に紹介、歯の問題が見つければ内科から歯科医師に紹介できる、顔の見える関係を地域の中で作り上げようと考えており、それがもっと広く普及していけばいいと思っている。

3 議事

○事務局： 岡山市歯科保健基本計画では、重点的に取り組む歯科口腔保健対策として、歯と口の働き（口腔機能）の健全な育成、機能の維持・向上と障害者（児）、要介護者の口腔の健康の保持・増進への取組みの2つを掲げている。口腔機能についてこれまで取り組んできたことを説明する。

口腔機能の発達は、年齢とともに発達期、維持期、減退期に分けられる。

発達期においては、1歳6か月児健診や3歳児健診、また子どもの歯の相談という場を通じて、お口の機能の発達状況の確認や保護者の方への周知、それからまた学校の現場では、先ほど委員から説明があったように、カミカミ献立や歯科保健教育、食育指導などを行っている。

維持期においては、岡山市では妊婦・パートナー歯科健康診査や歯周病検診に取り組んでいる。

減退期においては、入所介護施設への口腔ケア等導入支援事業を行っている。

これら口腔機能の育成、機能の維持・向上に向けて取組みを行ってきたが、評価項目「60歳代における口腔機能の低下が認められない人の割合の増加」は平成22年度に比べて悪化しているという結果になっている。高齢者の口腔機能の低下は低栄養や誤嚥性肺炎に直結し、口だけでなく体全体の機能のフレイルにつながるものであり、平成31年度は高齢者のオーラルフレイル対策に重点を置いて取り組んでいきたいと考えている。

高齢者のオーラルフレイル対策を行う上での課題として、オーラルフレイルという概念が近年になって新しく提唱されたものであるため、まだ市民の認識や理解が十分ではないということが上げられる。そのため、オーラルフレイルについての市民の認識を高めるとともに、口腔機能の維持・向上のための支援策の構築を検討する必要がある。そこで、平成31年度は、高齢期における口腔機能の維持・向上の重要性に関する普及啓発と、高齢者歯科口腔健診に取り組みたいと考えている。

高齢期における口腔機能の維持・向上の重要性に関する普及啓発については、4月に全戸配布する「保健所からのお知らせ」の紙面にオーラルフレイルのセルフチェックを掲載することとしている。また、歯周病検診の受診者へ検診後に送る書類にオーラルフレイルのセルフチェックや啓発資材を同封する、愛育委員会の会長を対象とした研修会で口腔機能をテーマに取り上げるといったことを実施する予定としている。

高齢者歯科口腔健診は、岡山市内歯科医師会連合会に協力いただき、76歳になる高齢者を対象に市内の歯科医療機関で健診を行うもの。

事業全体のイメージは、セルフチェックを含めた普及啓発で個人によるオーラルフレイルのチェックをするとともに、76歳の人には高齢者歯科口腔健診を受ける機会を設け、専門職による口腔機能のチェックを行う。口腔機能が正常から中等度の人、自宅でのトレーニングや地域の健康教室や介護予防教室への参加、かかりつけ歯科医療機関での定期検診などにより口腔機能の維持・向上をしていただきたい。口腔機能が落ちている人は、これらを契機として歯科医療機関での治療につなげていきたい。

しかし、さらなる口腔機能の維持・向上対策を進めるためには、無関心層を含めたオーラルフレイルについての市民の認識を深めること、歯科訪問診療を含めたオーラルフレイル対策の展開や地域・民間企業との連携など口腔機能の維持・向上の支援策を構築することが今後の検討課題であると認識している。

今後の高齢者のオーラルフレイル対策として、オーラルフレイルについての市民の認識を深めるためには今後どうしたらよいか、また、口腔機能の維持・向上の支援策の構築のためにどのような取り組みをするのがよいかという点についてご審議いただきたい。

○委員： 愛育委員を対象とした研修の話があったが、栄養委員を対象とした研修についてはどのように考えているか。

○事務局： 栄養委員が受ける月1回の栄養教室で必ず歯の健康について取り上げている。これまで通り、栄養委員への研修を続けていく。

○委員： 高齢者、特に認知症の人の対応において、歯と口腔の健康は大切だと痛感している。単に嚙めない、食べないというのではなく、歯と口腔はコミュニケーションの第一の手段であり、よく食べてよくしゃべる人は認知症が進行しにくいという気がしている。岡山市の取組みに期待しているが、口腔機能が低下している高齢者をどのようにキャッチしていくか。

○委員： 岡山市のフレイル対策事業については、岡山市から医師会へ相談があり、どのように進めていくか議論されているところ。フレイル・オーラルフレイルとも、まだ市民になじみがない。まずはその周知から始まると思う。
オーラルフレイルはセルフチェックのみで非常に簡単。大勢の人に配ることができるので、これは入口としてはいいことではないかと思う。

○委員： 普及啓発には、老人クラブの集まりの場で歯科衛生士が話をするなど、その話を直接聞くということが大事だと思う。公民館の運営委員もしているが、公民館主催の講座など高齢者が集まる継続的な場が開かれている。公民

館との連携で普及啓発をするのはどうか。

また、歯と口の健康について家庭で話題になることが大事。孫が歯医者に行くなら自分も一緒に行こう、孫が言うなら検診に行ってみようというようなことがあると思う。出前講座などで学校で歯のことについて話をしていただき、学校教育で子どもを通じて家庭へ啓発するといったこともできるのではないか。

○委員： 普及啓発の活動に孫やひ孫世代を巻き込んではどうだろうか。おやこクラブの敬老の日関係の活動で祖父母世代にプレゼントをすることがあり、そういう機会を通じて歯ブラシなどと併せてオーラルフレイルのセルフチェックリストを贈るといったのもいいのではないだろうか。

○委員： 玉野市ではいきいき百歳体操を地域のサロン50カ所ほどで実施している。岡山市では公民館をターゲットにして少しずつ広めていくのがいいのではないか。市民全体に広く配るより、小口で広めていく方が理解者は増えると思う。

○委員： 高齢者のオーラルフレイルとは、具体的に何歳以上をターゲットとした対策なのか。また、将来的な評価はどのように行うのか。新しい評価項目を新たに設けるのか。

○事務局： 岡山市歯科保健基本計画では、「半年前に比べてかたいものが食べにくくなりましたか。」「お茶や汁物等でむせることがありますか。」「口の渇きが気になりますか。」の3つのうち1つでも当てはまる人を口腔機能が低下しているおそれがある人として、65～69歳の人への調査でこの割合を出している。

60歳くらいからを対象に口腔機能の維持・向上のアプローチをしていかなければ目標項目を改善することはできないと考えている。

○副会長： 平成31年度の事業をどのように評価するのかという点については検討の余地があるのではないだろうか。

○事務局： 先ほどのセルフチェックの3項目での事業評価は、平成十何年から全国一

律に実施している3年に1回の高齢者実態調査で収集しているデータに基づくもの。今後60歳に限らず、過去のデータもあるので、その中で高齢者がその項目についてどういう変化があるのかということをもって事業評価としての評価はしていけると思う。

高齢者歯科口腔健診の事業評価については、健診実施後の歯科レセプトでの医療費を追って把握するといったことは技術的には可能だと思うが、現在のところ、そのようなフォローは予定していない。

○会 長： 個別にはそれぞれの医療機関などでフォローしながら、事業評価は岡山市歯科保健基本計画の評価項目を使ってもらえれば。

岡山市は議論された意見を受け止め、歯科保健がさらに推進されるよう検討を進めていただきたい。

○事務局： いただいたご意見を今後の岡山市の施策に反映できるよう、今後検討を進める。

4 閉会

挨拶 岡山市保健福祉局保健福祉部保健管理課 花房課長

様々のご意見をいただき、平成31年度の事業についても全力を挙げていきたい。

フレイル、オーラルフレイルという言葉にまだまだなじみがないので、各団体で質問があれば今日の話を広めてもらうお力添えをいただければ幸いに思う。